

# TOWN

令和7年度  
全世代タウンミーティング

# MEETING

これからの寝屋川市



市長と市民が語る

望が丘小学校区 / 東小学校区 / 南小学校区  
神田小学校区 / 点野小学校区 / 北小学校区 / 第五小学校区

報告書



# I 開催概要

---

## 1 目的

市長と市民が直接対話することで、地域に関する課題等を把握し、暮らしやすいまちづくりにつなげるため、小学校区ごとに全世代タウンミーティングを実施した。

## 2 開催日程等

開催日時	対象	開催場所	参加人数
10月24日(金)	望が丘小学校区	望が丘小学校・中学校	44人
10月29日(水)	東小学校区	東コミュニティセンター	17人
11月5日(水)	南小学校区	南コミュニティセンター	27人
11月11日(火)	神田小学校区	西南コミュニティセンター	19人
11月18日(火)	点野小学校区	西コミュニティセンター	25人
11月20日(木)	北小学校区	西北コミュニティセンター	25人
11月25日(火)	第五小学校区	東北コミュニティセンター	14人
参加人数			合計 171人

※ 全日程、午後7時00分～

## 3 参加対象者

開催場所の小学校区に住む方。(在学・在職する方も含む)

※年齢不問

## 4 頂いた御意見の活用

頂いた御意見については、庁内関係課で共有し、今後の施策・事業を進める上での参考とする。

## 5 市長からの冒頭の説明内容

### ① 市の現状（ターミナル化構想）について

寝屋川市は昭和 35 年から昭和 50 年にかけて人口が約 20 万人増加し、人口増加率日本一という時代があった。当時のボリュームゾーンであった若い世代が入れ替わらず約 50 年が経過した今、当時子育て世代だった方が今ではシルバー世代となり、シルバー世代の人口の割合が他の自治体と比べて多くなっている。シルバー世代の方にとって、公共施設が市内に点在していることは、サービスの利用が不便な状況である。

こうした課題を解決するために、各公共施設を寝屋川市駅周辺に集約するターミナル化構想を進めている。将来的に車や自転車に乗ることが難しくなるシルバー世代の方のために、まちをつくり変えておく必要があると考えた。このターミナル化構想を進める前は、手続によっては例えば寝屋川市駅まで出た後、さらにバスを乗り継いで窓口までお越しいただく導線になっていた。シルバー世代を始め、障害をお持ちの方、小さなお子さまをお連れの方などにとって利用しやすいまちづくりを進めている。ターミナル化構想の例を挙げると、令和 3 年 8 月にもともと市の西側の総合センターにあった中央図書館を寝屋川市駅前のアドバンスねやがわ 1 号館 4 階に移転させた。令和 7 年 5 月には市民サービス部の窓口や子どもの手続関係の窓口を寝屋川市駅前のサービスゲートへ移転させ、1 箇所での証明書の発行や税、健康保険などの手続、子どもの健診、入所手続などが完結したり、オンラインを活用し遠隔で福祉部と繋げ、窓口が離れていても手続ができるシステムを導入した。令和 8 年春には寝屋川市駅前にこども図書館がオープンし、令和 9 年春にはアドバンスねやがわ 1 号館の 5 階と屋上に生涯学習（多機能）施設と多機能型屋上広場のオープンを予定している。

# 01

## ターミナル化構想（各公共施設の集約状況）

寝屋川市の現状

- 完了
- 実施予定



年度	施設名
令和3年度	中央図書館オープン (総合センター図書館機能移転)
令和6年度	望が丘小・中学校開校
令和7年度	サービスゲートオープン (市民サービス部・子ども部移転)
令和8年度 (予定)	(仮称) 子ども専用図書館 (おやこほっとステーション移転) 生涯学習(多機能)施設 多機能型屋上広場

### ターミナル化構想



中央図書館 サービスゲート



望が丘小・中学校

# 01

## ターミナル化構想（寝屋川市駅周辺エリア）

寝屋川市の現状



駅前広場リニューアルイメージ



アドバンスねやがわ1号館



屋上イメージ



子ども専用図書館イメージ



おはなじらば



まなひらば

はくくみらぼ

西側駅前広場のリニューアル

アドバンスねやがわ1号館  
生涯学習(多機能)施設の整備  
多機能型屋上広場の整備  
令和9年3月 オープン予定

中央図書館  
令和3年8月 オープン

サービスゲート  
令和7年5月 オープン

(仮称)子ども専用図書館の整備  
令和8年春 オープン予定

東側駅前広場のリニューアル



中央図書館



サービスゲート外観



自習ブース

## ② 災害時の課題・対策について

南海トラフ巨大地震や生駒断層帯地震などの災害に備えて、避難所の環境整備を進めている。これらの大きな地震が発生した際の寝屋川市の被害想定は、約3分の1の家屋が全半壊し、避難所での生活者数が約4万人である。その状況下で必要なのが、水の確保、避難所の環境整備、トイレの環境整備であり、対策する必要があると考えている。

水の確保については、従来の給水車に頼るだけでは、水が行き渡らないため各小学校に災害対策用井戸及び浄化設備を設置し、飲用水を確保する。

避難所の環境整備については、夏場や冬場の避難所で体調を崩し、亡くなる災害関連死などを防ぐため、令和7年度末までに各小中学校の体育館に停電時でもプロパンガスで稼働ができるエアコンを設置する。プロパンガスは備蓄用に加え、他の地域から陸送ができればエアコンを稼働することができると考えている。

トイレの環境整備については、仮設トイレでは数が足りず、またバリアフリーやプライバシーの問題があることから、避難所の既存のトイレを使えるように環境を整備する。凝固剤と便袋を活用して常に清潔で安心してトイレを使える仕組みを考えた。

## ～発生確率が高い地震と被害が大きい地震～

寝屋川市地域防災計画より抜粋

被害データ	南海トラフ巨大地震（最大震度6弱）	生駒断層帯地震（最大震度4～7）
死者数	78人	519人
負傷者数	1,449人	3,485人
避難所生活者数	41,040人	38,518人
建物全壊棟数（A）	12,804棟	18,355棟
建物半壊棟数（B）	12,661棟	15,825棟
建物全半壊棟数（A+B）	25,465棟	34,180棟
停電軒数	52,841軒	55,789軒
ガス供給停止戸数	91,082戸	101,000戸
水道断水者数	229,731人	198,000人

40年以内の発生確率90%程度

直下型地震で  
30年以内の発生確率0.2%以下

被災地に派遣された職員の声等を参考に検討！

災害時に想定される課題対策のため、設備や環境など3要素を整備



**市立小学校に  
災害対策用井戸を設置**

飲用に供する災害対策用の井戸及び浄化設備等を設置。



**災害時用  
トイレ環境の整備**

想定避難者（41,040人）が発災直後から3日間使用できる凝固剤及び便袋を追加配備。



**市立小学校体育館に  
エアコンを設置**

災害によるエネルギー遮断に対応した空調機を設置。

### ③ 市の財政状況と転入転出人口

自治体の財政の余裕度を表す経常収支比率について、令和4年度から令和6年度は府内31市中1位である。基金残高（普通会計）についても令和元年から令和6年までの6年間で、約220億円増加している。また、令和7年度から債券の購入による基金の運用を開始し、運用益を新たなまちづくりの投資に活用する

03 経常収支比率
10

## 財政の“余裕度”は大阪府内「トップクラス」

令和4年度

1位

府内  
31市中

88.4

令和5年度

1位

府内  
31市中

88.8

令和6年度

1位

府内  
31市中

89.3

\*順位は、府内都市の経常収支比率の状況（普通会計）【都市】の比較

自治体の経営状態を見るときに最も重要となる指標が「経常収支比率」です。人件費や福祉の予算、借金の返済など毎年必要な経費を、税金などの収入でしっかりまかなえているか、どれだけの「余裕」があるかを示すものです。この数字が小さいほど「財政に余裕」があることになります。

寝屋川市はこの指標が大阪府内31市中、令和4年度から令和6年度で3年連続「1位」と「府内トップクラス」となりました。

03 基金残高
11

### 6年間で、約220億円分の「貯金」を増やす

#### 基金残高（普通会計）

約220億円  
貯金増加

03 基金の運用
12

### 債券の購入による基金の運用の開始 (令和7年度～)

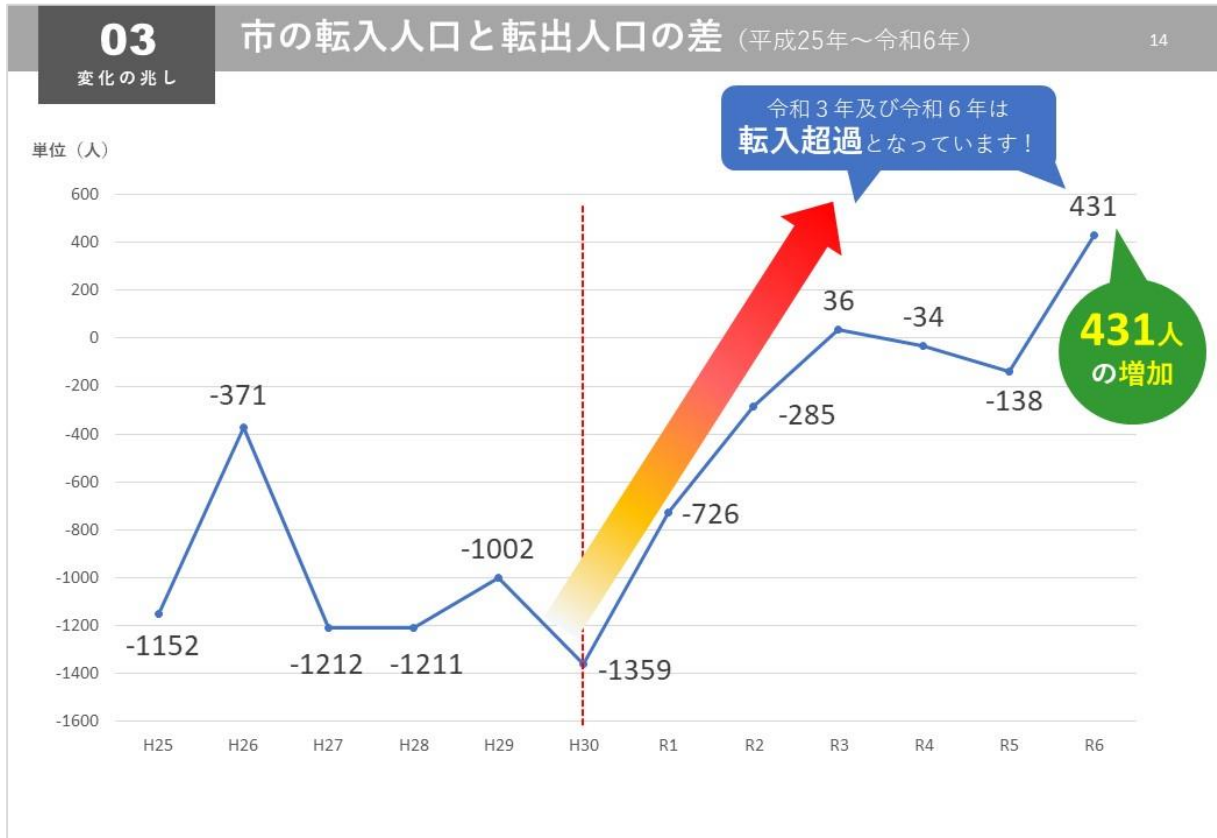
基金（約370億円）について、定期預金（約300億円）による運用に加え、国債等の債券購入（約70億～120億円）による運用を開始し、運用益を新たな『まちづくりの投資』に活用します。

債券購入による予定利益

令和7年度	1億3,614万8,000円
令和8年度以降	2億8,729万6,000円

(参考) 令和6年度 定期預金による運用利益 約3,300万円  
令和7年度 定期預金による運用利益(予定) 約1億5,000万円

市の転入転出人口（社会増減）については、平成30年以前は多いときで約1,300人の転出超過となっていたが、令和元年以降は改善し、令和3年（31人増加）及び令和6年（431人増加）は転入超過となっている。



## 目次

Ⅱ 意見交換の内容 .....	15
望が丘小学校区（10月24日実施） .....	16
京阪バスの減便について .....	16
無料シャトルバスについて .....	17
市内の開発について .....	17
第四中学校跡地および星田周辺の開発計画について .....	18
災害時の職員体制と人数確保について .....	19
学校（小中一貫校）運営の柔軟性について .....	20
経常収支比率について .....	21
市民活動支援と市民対応のAI活用について .....	22
気候変動対策について .....	23
市の収入増加策について .....	23
第四中学校と梅が丘小学校の跡地の活用方法について .....	24
寝屋川公園駅周辺の公共施設の整備と今後の方針について .....	24
小学校給食の無償化について .....	25
大阪府営住宅について .....	26
乳幼児健診等へのアクセスについて .....	27
梅が丘小学校の跡地について .....	27
東小学校区（10月29日実施） .....	28
道路のバリアフリー化について .....	28
道路の舗装について .....	28

寝屋川市駅周辺の駐車場について .....	29
京阪バスの本数について .....	30
自治会について .....	31
水道料金の請求について .....	32
災害時の避難場所について .....	32
災害時の水の確保について .....	33
災害時に必要な設備について .....	33
自転車専用道路について .....	34
終活について .....	35
市職員の数について .....	36
道路や河川の維持補修について .....	37
小・中学校の教育について .....	38
自衛官等募集事務に係る対象者情報の資料提供について .....	38
生涯学習施設について .....	38
小・中学校の給食について .....	39
農機具の補助について .....	39
墓や葬式について .....	39
南小学校区（11月5日実施） .....	40
南幼稚園跡地の活用について .....	40
萱島駅前の商店街について .....	41
公共交通機関について .....	42
小一の壁について .....	42
地域の担い手不足と手続の一本化について .....	43

ターミナル化構想の今後の課題について .....	44
市の情報の伝え方について .....	44
防災無線について .....	45
神田小学校区（11月11日実施） .....	46
神田幼稚園跡地について .....	46
池の里市民交流センターの施設整備について .....	47
小中一貫校の計画について .....	47
学校のバリアフリー化・エレベーター設置等について .....	48
小学校のプール授業の暑さ対策について .....	49
転入超過について .....	49
萱島の道路とまちづくりについて .....	50
遠隔窓口の拡大について .....	51
自治会の担い手不足・加入率低下の問題について .....	52
保育所園の入所調整について .....	53
点野小学校区（11月18日実施） .....	55
水路の水を流す期間について .....	55
桜の植替えについて .....	55
子どもの遊び場について .....	56
通学路の安全対策について .....	56
公園の草刈について .....	57
乗合い事業について .....	57
市内人口の外国人の割合について .....	58
道路における迷惑行為について .....	58

高齢者の買い物支援について .....	59
災害時の避難先について .....	60
市西側の開発について .....	60
マラソン大会について .....	61
ジョギングコースについて .....	61
北小学校区（11月20日実施） .....	62
災害対策について .....	62
地域の担い手不足について .....	63
保育所園の待機児童について .....	64
市内の美化問題について .....	65
不登校児童について .....	66
バス停前のベンチ設置について .....	66
日新町の渋滞道路の対策について .....	67
市立中央図書館 西北分室の利用について .....	67
タウンミーティングでの発言内容について .....	68
第五小学校区（11月25日実施） .....	69
中央高齢者福祉センターの移転について .....	69
中央高齢者福祉センターの新館部分について .....	69
通院送迎のボランティアについて .....	70
大阪公立大学工業高等専門学校の跡地について .....	71
プールの在り方について .....	72
学校プールのセントラル（共同利用）化について .....	73
見守りパトロールカーの入れ替えについて .....	73

災害対策用の井戸について .....	74
ねやちよ筋プレミアムについて .....	75
香里園駅高架下の今後の活用について .....	76
災害時用トイレの整備について .....	77
Ⅲ 参加者アンケート結果 .....	78

## Ⅱ 意見交換の内容

---



## 望が丘小学校区（10月24日実施）

### 京阪バスの減便について

#### 【市民】

市のターミナル化構想はすばらしいと思うが、高齢者にとっては移動手段が必要不可欠である。寝屋川市駅周辺に公共施設があっても、来年度から京阪バスが寝屋川公園駅経由の多くの路線を廃止すると発表しており、市はこの問題に対してどのような検討をしているのか。

#### 【市長】

京阪バスの路線廃止について、バス路線は重要であるとの意見がある一方、実際にはほとんどの市民が利用しておらず、ビジネスとして成り立たない現実がある。市ではターミナル化構想を進めており、寝屋川市駅周辺にさまざまなサービスを集約する中で、学研都市線沿線からのアクセスに対する検討が必要とは考えている。ただ、行政手続について、公共施設に出向かずともオンラインで完結できる仕組みを作る必要があると思っており、現在、保護課・高齢介護室・障害福祉課の手続はサービスゲートからオンラインで繋げ、モニターで手続を実施している。今後、学研都市線沿線にも同様のサービスが提供できれば寝屋川市駅に出向く必要はないため、需要を見極めながら検討する。また、仮に、市がバスを運行しても、平日昼間の時間帯にはほとんど空車状態になる可能性が高く、需要を正確に把握し、費用対効果を考慮した上で、行政として適切な対応を検討していく必要がある。



## 無料シャトルバスについて

### 【市民】

大阪府結核予防会 大阪複十字病院から寝屋川市駅へのシャトルバスは無料で運行されているが、病院利用者の専用であり、一般市民が利用できるようにする方法はないか。

### 【市長】

病院のシャトルバスについて、病院利用者以外が使用できる可能性はあると考えているが、他にも市内に同様のシャトルバスはたくさんあり、こういったバスを活用するネットワークを作れないか検討したこともあるが、バス業者やタクシー業者などの民間事業者の利益を圧迫しないよう配慮しなければならないため、行政として慎重に検討する必要がある。

## 市内の開発について

### 【市民】

大阪府が整備している都市計画道路 梅が丘高柳線の工事が進んでおり、今後移動が楽になると思うが、寝屋川市として関連した開発を検討してほしい。また、開発ができる場所が少なくなっているという話があったが、望が丘小学校・中学校の東側にまだ田んぼが多く残っているため、このエリアの開発をお願いしたい。

### 【市長】

道路が整備されれば、沿道が発展するとは限らないと考えている。

寝屋川公園駅周辺エリアは、高台に駅や学校、病院、スーパー、緑豊かな大阪府営の公園といった便利施設が整備されており、このような場所は府内には他にない。そのため、寝屋川公園駅周辺エリアを教育、公園、夜景の街としてブランドを形成し、優良住宅街の確立を目指している。これにより、若い世代の定住を促進し、地域の発展を図っていきたいと考えている。

## 第四中学校跡地および星田周辺の開発計画について

### 【市民】

第四中学校の跡地に関して、今後どのような計画があるのか。市の施設が建つか。また、星田周辺で開発が進んでいると聞いているが、どのような街になるのか教えてほしい。

### 【市長】

第四中学校の跡地については、まだ最終的な決定はされていないが、私の考えとしては、府の公園と隣接し、駅にも近い場所であるため、新しい住民を迎えるために民間の活力を活用した住宅街の形成が適していると考えている。寝屋川公園駅周辺エリアは公共施設が多くないため、このエリアの人口の増加の動向を見ながら検討する必要があるが、今後 30 年間で市内の既存施設の維持更新に約 2,100 億円が必要と試算されており、少子高齢化により市民がこれから減少していく中、一人当たりの負担を増やさずに施設を維持するために施設のダウンサイジング（集約・複合化）を進めていく必要がある。

星田周辺の開発については、寝屋二丁目・寝屋川公園地区において、地権者が集まり、現在、まちづくりの協議が行われている段階である。詳細は公表できないが、様々な議論が進められている。

## 災害時の職員体制と人数確保について

### 【市民】

市役所の職員数が少ないという話があったが、災害時に職員が最前線で対応することを考えると、職員数に余裕が必要だと思う。どのように考えているのか。

### 【市長】

災害時の職員数については、バランスの問題である。災害の発生確率を考慮し、どれだけ人員を確保するかが重要な判断となる。私が就任する前は、少人数で業務を回すため、職員1人あたり月に45時間、多い人では100時間を超える残業が発生していた。この残業を、新たに職員を採用する方法で解決しようと考えた。残業代を新たに採用する職員の人件費に置き換えることで、職員数を増やしながらか人件費の増加を抑え、災害対応人数を確保できると考えている。このオペレーションは令和元年度以降、順次実施しており、市民の負担を増やさずことなく対応体制を強化している。



## 学校（小中一貫校）運営の柔軟性について

### 【市民】

梅が丘に引っ越してきたが、小学校と中学校が一緒になっていることで、いくつかの制限が生じている。休み時間に校庭で遊べるのが週に2・3回で、校庭が使えないときに体育館を使うことができるが、そのバランスが取れていない。また、音楽会では保護者が見学できないことがあり、新しい試みの中で探り探りではあると思うが、段取りがうまくいっていない点があるので、その改善をお願いしたい。

### 【市長】

学校を作る際、地域や保護者との協議の中で、小学校と中学校を分けて運用するようにという提案があり、その結果、学校側がその運営に縛られていると感じている。教育については、権限がなく踏み込めない部分もあるが、もっと柔軟に運用しても良いと思う。ただ、学校側は安全に運営をしたいと考えているのだと思う。校庭の使い方について、上級生と下級生が折り合いをつけ、もっと自由に使うことができれば、社会性を学ぶ良い機会にもなると考えており、トラブルがあれば介入すれば良い。

また、授業参観や運動会などのイベントについても、もっと自由に運営すべきだと思っている。例えば、万博のブルーインパルス飛行時に防災無線で市民にお知らせする提案をした際、行政内部では反対意見が出たが、市民にとってわくわくするような情報を提供するためには柔軟に対応すべきだと考えている。批判を恐れず柔軟に運用することで、行政サービスをより魅力的にできると思っており、この考えは教育部局にも伝えておく。

## 経常収支比率について

### 【市民】

経常収支比率が近年、大阪府内 31 市で 1 位が続いている理由は何か。

### 【市長】

令和元年度に中核市になり、前提条件が変わったことがある。また、お金の使い方を絞っている点がある。コロナ禍では寝屋川市は他市と比べてかなり補助を出していた。お弁当の補助や水道料金の無償化など、長期間にわたって支援を行ってきた。しかし、使うところと使わないところでメリハリをつけている。必要がないサービスはないという考え方がある一方で、落とすべきところは落としていくべきだと考えている。例えば、中学校給食の無償化（R5.8 月から）と保育所等保育料第 2 子以降の無償化（R5.10 月から）を実施している。この 2 つの事業には年間 5 億円が必要となるが、追加で使うと経常収支比率が高くなってしまうため、これにかかる財源については、マイナスシーリング型予算で捻出している。各部に 5 億円を割り振り、断捨離をさせた。利用者が極めて少ないサービスや特定の方のみが利用しているものについては見直しを行い、削減している。利用者が少なくとも、福祉関連のサービスなど、必要な支援については削らないようにしているが、それ以外のサービスは見直しを行っている。

さらに、人口減少の影響を考え、将来のために積極的に投資を行っている。学校の施設などに投資することで転入者を呼び込み、若年層の人口を増やすことが目的である。このような投資によって、年齢構成や所得構成のバランスを取ることが重要だと考えている。望が丘小学校・中学校については、オーバースペックだとお叱りを受けたこともあるが、これは未来を見越して行っている投資である。人口減少に対応するためには、慌てて何かをやっても間に合わないため、今の間に投資を行う必要があると考えている。

## 市民活動支援と市民対応の AI 活用について

### 【市民】

昨年、地域の交流会を開催し、高齢者と子どもたちの交流の場を提供した。この活動は実費で行っており、社会福祉協議会にも支援を求めたが、支援がなく、行政からの情報提供やサポートも十分でなかった。その後、市長に手紙を送ったところ、市長が実際にイベントに訪れ、非常に感謝している。市長からは、市民活動支援基金（ニコニコ基金）への応募を勧められ、実際に資金を得ることができた。ロータリークラブにも感謝している。ただ、市民活動を行っている市民に対して、行政からの支援や情報提供がもっとあれば良かったと感じており、職員の人手不足が原因ではないのかと考えている。

### 【市長】

民間に対する個別の補助は、行政の通常の施策としてはほとんど行っていない。職員の対応については、制度を知らないことで、答えられないケースも考えられる。行政の部署は縦割りで運営されており、例えば福祉部門では福祉のことは詳しいが、市民活動や社会教育に関連する情報提供が不足していることもあり得る。今後は、こうした情報提供をよりスムーズに行い、横の連携を強化していく必要があると考えている。

また、市の職員については、月 45 時間以上の残業をしている職員はおらず、繁忙期に業務量が増えることはあるが、過度の残業はない。さらに、民間企業と共同で AI を活用した電話対応の実験を行っており、この AI 電話対応システムを導入することで、市役所の業務効率が向上し、24 時間対応が可能になると見込んでいる。

寝屋川市が AI を活用した業務効率化の先頭を切り、他の自治体の標準となるサービスを提供することが目標である。

## 気候変動対策について

### 【市民】

気候変動対策に関して、市としてどのような対策を講じているのか。

### 【市長】

寝屋川市では、自治体として実施すべき基本的な対策や計画を定め、実行に移している。地球温暖化対策は日本だけでなく、全世界で取り組むべき重要な課題で、さらに積極的に取り組むためには、市民に負担をかける可能性がある施策も含まれる。例えば、ごみの排出量を抑制するためにごみ袋の有料化や環境税を導入するとなると、市民の負担増を招くことになるため、そのバランスを慎重に取る必要がある。そのため、市としては、国が方針として定めている基準を主軸に実行していく。

## 市の収入増加策について

### 【市民】

市として収入を増やす方法について、具体的に考えている施策はあるか。

### 【市長】

地方自治法においては、市民から預かった税金を最も有利かつ安全な方法で運用しなければならないと定められており、市民の大切な税金を運用する際も同じ方法を選ばなければならない。そのため、寝屋川市では国債など、比較的有利で安全な運用方法を採用している。市が商売を行ってはいけないという法律は存在しないが、100%安全な事業は存在しないため、できる範囲での運用を行っている。

## 第四中学校と梅が丘小学校の跡地の活用方法について

### 【市民】

第四中学校と梅が丘小学校の跡地の活用方法について、どのように考えているか。

### 【市長】

駅や緑豊かな公園が近いため、優良な開発ができると考えている。最も有利な活用方法を検討していく。

## 寝屋川公園駅周辺の公共施設の整備と今後の方針について

### 【市民】

サークル活動ができる場所や図書館など寝屋川公園駅周辺に公共施設をつかってほしい。望が丘小学校区の住民がずっといきいきと住み続けられる街にしてほしいと思う。また、ランチで図書を借りられるようにしてほしい。

### 【市長】

寝屋川公園駅周辺は、公共施設が他のエリアと比較して少ないのが現状である。ただし、床面積で見れば、学び館や東高齢者福祉センターがあるため、床面積としては確保されている。しかし、これらの施設が本当に使いやすい場所にあるのかというと、必ずしもそうではないという課題がある。そのため、床面積を増やさずに総合的に公共施設の在り方について検討する必要がある。また、ランチで図書の貸出ができない点については改善の余地があると考えている。



## 小学校給食の無償化について

### 【市民】

今後、小学校の給食が無償化になることはあるか。現状は、月 3,800 円（小学 5・6 年生）支払っている。

### 【市長】

国が無償化の方向で進んでいることを踏まえると、可能性は高いと考えられる。次の段階として、無償化になった後の給食の在り方について考えていきたいと思っている。現在、寝屋川市は中学校の給食を無償化にしており、小学校の給食には一部、補助を出している。

現在、給食の保護者負担は月額 3,800 円（小学 5・6 年生）であり、大阪府内でもかなり低い水準にある。今後、無償化となった場合、保護者も市の負担もなくなり、ただ単にそれで「良かった」と終わるのではなく、例えば、協議をしたうえで、保護者には今後も 1,000 円程度の負担をお願いし、その分を子どもたちにより良い給食を提供するために、市と保護者がそれぞれ 1,000 円ずつ負担し、月額 6,000 円程度（国 3,800 円、市 1,000 円、保護者 1,000 円）まで引き上げることで、給食の内容を充実させることが可能となり、より質の高い給食を提供することができると考えている。寝屋川市が大阪府で 1 番の給食を目指して改善していくことは価値のある取組だと考える。ただ、給食の内容を充実させるためには、給食調理の能力の向上が求められ、調理室の設備や調理員の増員などが必要になる可能性があり、改善を実施するためには周辺の課題にも対応しなければならない点もご理解いただきたい。

（追加質問：デザートの実であれば経費がかからないのでは）

今後、総合的に検討する。

## 大阪府営住宅について

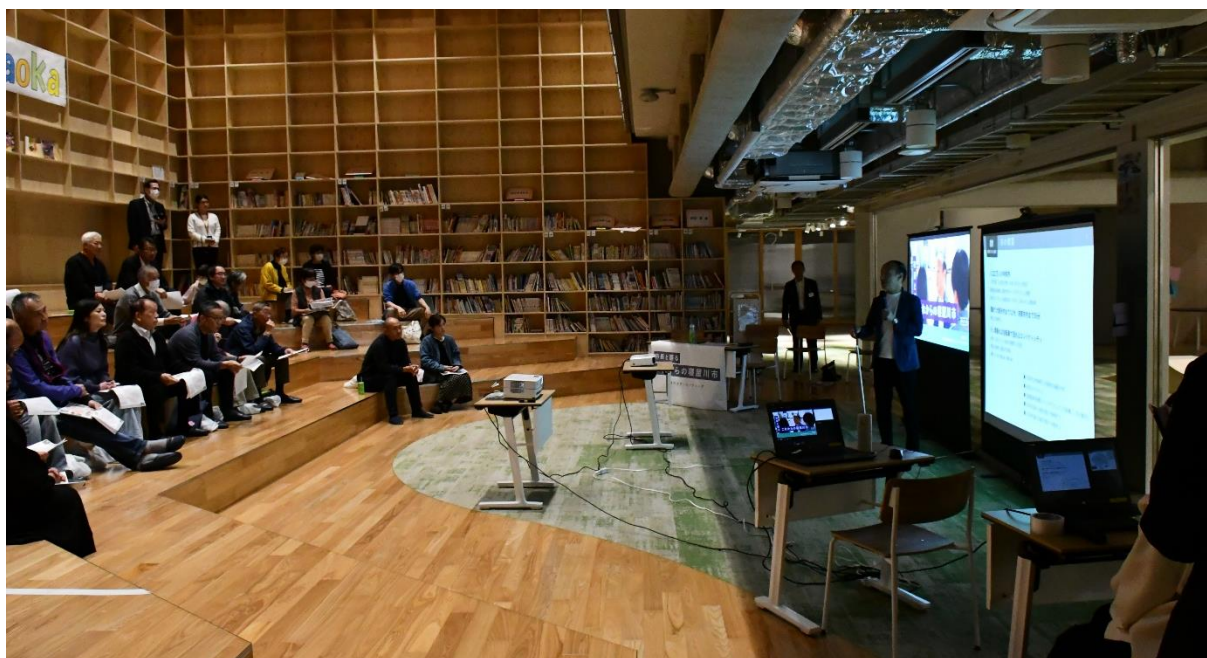
### 【市民】

大阪府営住宅は建て替えると決まっているか。また、寝屋川市に移管されるのか。

### 【市長】

大阪府は府営住宅の移管に関する条件を示しており、その内容は、市内全ての府営住宅を一括で移管したいというものである。寝屋川市には仁和寺、点野など、いくつかの府営住宅が点在しており、これらは今後改修や建替が必要となり、膨大なコストがかかる。府としては、これらの維持管理コストも含め寝屋川市をはじめとした自治体に引き取ってほしいという依頼をしてきている。一部の自治体はこの提案を受け入れているが、それには理由がある。例えば、大東市のような府営住宅が駅周辺や市営住宅に隣接しているなど、まちづくりへの活用の可能性が高く、引き取ったケースや、門真市のような非常に広大なエリアの中に府営住宅があり、建替を進めることでメリットを生むため、引き取ったケースがある。

しかし、寝屋川市の場合、市内に点在した府営住宅の立地や規模、集約建替えによる財政負担などの観点から引き取りには厳しい現状であると考えている。



## 乳幼児健診等へのアクセスについて

### 【市民】

寝屋川公園駅から幼児健診や保育所へのアクセスについて、バス本数が減少している中で移動が非常に困難である。乳幼児を連れての遠距離の移動がたく、産後の母親の負担が大きいと感じた。シャトルバスの運行や校区ごとの保健師訪問など、より便利な子育て支援の充実をお願いしたい。

### 【市長】

子育て関係の講座については寝屋川公園駅の地域でも開催されており、保護者の方に利用されており、今後も充実させていく。

乳幼児健診については機材が必要であるため、出張健診を実施することはできない。移動に関するニーズについては耳にするが、実際のところ、京阪バスが十分に活用されていないので、完全には把握しきれていない部分もある。ニーズがあるのであれば健診の日程にあわせた送迎も検討の余地があると考えている。

## 梅が丘小学校の跡地について

### 【市民】

梅が丘小学校の跡地についてはどう考えているか。

### 【市長】

第四中学校跡地は開発をやっていきたいと考えているが、梅が丘小学校跡地については、現時点での開発は難しいと考えている。例えば、市内で災害物資の備蓄を増やしていく際の基地とする、大量の蔵書を保管する施設として活用する等、市全体で利活用を考えていく。地域の施設として貸し出してほしいという要望もあるが、地域施設として提供するの難しい。全体としての活用方法を考え、安全面も考慮しながら建物の活用方法を検討していく。

## 東小学校区（10月29日実施）

### 道路のバリアフリー化について

#### 【市民】

歩道と車道の上に段差があり、車椅子が引っかかる。大きい道路や道路の片側だけでも、バリアフリーにすることはできないのか。

#### 【市長】

バリアフリー対応になっている道路もあるが、わずかな段差でも車椅子が引っかかることは理解している。現段階でできるかどうか伝えることは難しいが、新しく作る道路で検討したい。

### 道路の舗装について

#### 【市民】

道路に陥没しているか、していないか程度のでこぼこが多い。市に要請しても時間がかかると回答され、もうちょっと道路の改善を進めてほしい。要請後の市の対応についても分かりにくい。

#### 【市長】

道路にでこぼこがあることでケガをするような状態は放置できないと考えている。市道の部分は徹底的にきれいにすることも可能であるが、限りある財源の中で、どのレベルまで求めるかは市民に選択してもらう必要がある。マンションで例えるなら、市は管理人で市民は住人という立場。管理人は多くのサービスを提供したり家の前まで掃除をしたりすることもできるが、その分、住人の管理費は高くなるため、何を重視するかは住人に選択してもらわないといけない。全ての道を綺麗にすることはなかなか難しいため、明らかに市道で問題があれば自治会を通じての要望により通常どおり対応していく。

## 寝屋川市駅周辺の駐車場について

### 【市民】

ターミナル化構想が進んでいるが、寝屋川市駅周辺の駐車場が圧倒的に少ない。駅周辺に駐車場がもっとあれば商店街等の繁栄も見込めるはず。様々なサービスが市の中心部に移る状況をどう考えているのか。

### 【市長】

駐車場については、アルカスホールの隣の駐車場を市が一括で借上げて約140台分確保し、サービスゲートの前には福祉用の駐車場を約10台分用意している。市役所や図書館を利用される人の車の利用者数を計算し、この台数で十分収まるということで用意しており、行政機能を集約したことで必要となる駐車場は確保している。

民間の商業施設向けの駐車場を市が設置するということは考えておらず、車のお客さんを集客したいのであれば、民間側でやってもらうことになる。

サービスゲートを含めた市民サービスのターミナル化で、年間約100万人の人の流れが新しく生まれると想定している。今まで寝屋川市駅は、京阪沿線の中で屈指の乗降客数を誇る一方で、周辺の滞留人口が極めて少ないという課題があり、これを解決するためにターミナル化を進めているので、必要な駐車場は、行政として責任をもって用意する。

## 京阪バスの本数について

### 【市民】

イオンモール経由のバスが増えていることで、一部地域のバスの本数が減っている。これから運転手不足やバスの本数削減、廃線などが出てくるとバス利用者は駅へ行き来しにくい。将来的に市のサービスを一極集中にするなら現状の交通の便の悪さについても考えてほしい。

### 【市長】

将来的に交通網が大きい課題になると思っている。バス会社はごく一部の黒字路線を、赤字路線の補填に充てており、いつ撤退すると言われてもおかしくない状況である。

市としても対策が必要と考えているが、行政が何らかの穴埋めをすると、行政がやってくれるんだと新たな路線廃止のきっかけになり、やればやるほどバス撤退の理由にされてしまう。

現在、ねやBUSを走らせている黒原地区、木田・河北地区、木屋地区、については、廃止となった京阪バス路線を緊急対応として運行したものであるが、それ以外に市が万全な交通網を用意するとバス会社は確実に撤退してしまう。この交渉をやっている状況だが、市民生活ができないということはあってはならないので、新たな交通対策を検討していきたいと考えている。



## 自治会について

### 【市民】

自治会の加入率が7割強くらいで、徐々に入らない人が増えている。自治会の加入の可否で生まれる不公平感について、どう考えているのか。

### 【市長】

これまで実施したタウンミーティングの中でも、各自治会から意見として挙がるので、深刻な問題であると受け止めている。

そこで、令和7年3月に寝屋川市地域コミュニティ活性化推進条例という自治会に入ることを促す条例を制定した。今までは、市に対して未加入者から「自治会は任意加入ではないか」と問合せがあった場合に、市は任意であると答えるしかなかった。こうした状況では、各自治会で行っていただいている勧誘の取組を行政が後押しすることができないので、先述の条例により市は自治会への加入を促進している。

これを機に、市民の方が市役所まで任意加入であることを確認することがあっても、職員は条例に基づき、自治会や地域コミュニティの必要性等について説明をすることができている。

また、自治会に入るメリットとして災害時に命を守ることに繋がるということを伝える取組を進めている。本市は災害時に初動の人命救助と避難所の開設・運営について、自治会を中心とした地域にお願いする体制を整えており、災害時の役割を明確にすることで加入に繋がるのではと考え、少し強いメッセージを伝える準備をしている。

## 水道料金の請求について

### 【市民】

認知症の一人暮らしの世帯に、高額な水道代が請求されたことがあったと聞いている。水道が出しっぱなしにしていたことから結局、その方は支払うことになったと聞いたが、事前のアナウンスや減免の対応等、市役所側で何かできることはなかったのか。

### 【市長】

整備不全による漏水等の場合は、料金を支払ってもらう必要があるが、認知症が原因で出しっぱなしになっているという状況であれば、減免の対応を含め、一度担当課に状況を確認するよう伝える。

## 災害時の避難場所について

### 【市民】

災害時の対策として、体育館ではなくもっと頑丈な避難場所、例えばホテルなどを確保してほしい。市営住宅等、使っていない団地があれば災害時に備えるような形にできるのではないか。

### 【市長】

南海トラフ巨大地震が発生した場合、長期で避難所生活をしなければならない人は想定4万人いる。4万室のホテルを用意するとなると、桁違いの金額が必要となるので現実的ではない。災害時の避難場所というのはあくまで仮設で、生活を再建するまでの間に留まってもらう場所なので、事前に全て用意することは不可能である。仮に使っていない団地を活用しても100室～200室程度の確保にとどまる。

## 災害時の水の確保について

### 【市民】

大地震の際、市が災害対策で小学校に整備予定の井戸は有効なのか

### 【市長】

100%有効という保障はできない。地震といっても様々なタイプがあり、例えば南海トラフ巨大地震のような断層型であれば建物が傷むケースはあるが、地盤に直接影響がないということがある。ただし、地震のタイプによってはいくら準備しても場所によって使えないところが出る可能性がある。ただ、おそらく全てが使えないということはないので、井戸が使えなくなった小学校には陸送で水を持っていく方法が考えられる。浄水場にある給水タンクの水を給水車で持ち運んだり、他市から持ってきたりする方法を考えると、小学校の井戸という近場に水源があれば状況は随分違うのではないかと考えている。

## 災害時に必要な設備について

### 【市民】

小・中学校の老朽化により、受水槽や防火水槽など災害時に活用できない設備があるのではないのか。

### 【市長】

地震の際は、受水槽も含め、高置水槽にあげる水道管が横揺れに弱いのでおそらく壊れる。受水槽か水道管かを綺麗にしたところで、なかなか解決できない。だからこそ災害時には井戸が有効であると考えている。

また、一部の学校には耐震性貯水槽があり、飲料水に使うことが可能であるが、学校によっては作った時期が違うのでどれだけもつかが分からなかったりするため、井戸も含め耐震性貯水槽、受水槽、外部の給水、備蓄のペットボトル水など、水を確保する複数のルートを確保できる体制を構築しないと市民の命は守られないと考えている。

## 自転車専用道路について

### 【市民】

自転車でもともと走れる道が少ないので、専用道路を検討してほしい。

### 【市長】

市内の道路は、自転車専用道路を作るには幅が足りない。例えば、市域西側のような道路は拡幅をしなければ自転車専用道路を作ることは難しい。できる限り安全なところに自転車通行帯の青い線を引き自転車に利用してもらい、車は徐行して横を避けるというオペレーションを警察も含めて考えていきたい。特に来年度以降は道路交通法が厳しくなり自転車は歩道の通行が認められなくなるので、取り締まられる可能性がある。そうすると車道を走ってもらうようになるので、できるだけ青い線を引いていこうと考えているが、線を引くには道路幅に一定の大きさが決まっており、市内の道路はなかなか難しいのが現状である。

また、市内の東西を移動するための自転車専用の道みたいなものができたらと思うが、近隣に住む人の車の出入りなど様々な問題がある。場所の確保など課題は多いが、自転車や車椅子を乗っている人も多いので、スムーズに移動できるような方法を考えていきたい。



## 終活について

### 【市民】

子どもがいない夫婦は、遺骨や遺品の整理をどのようにしたら良いか。エンディングノート等を作っていたら対応してもらえるのか。

### 【市長】

事前に何かしてほしい場合は民間企業に依頼してほしい。市では事前に対応することは不可能だが、亡くなった後の手続は行う。例えば、一人暮らしの人が亡くなった場合、葬儀も遺骨も市が手続をする。エンディングノートについては、自分が亡くなった後の希望を記載されても今はそれを実現する仕組みはない。これから先、もっと高齢の方が増えていったら変わっていく可能性はある。一方で、8050 問題や障害をもっている子の親御さんが亡くなった場合、親の想いを引き継ぐ愛情のバトン・親なき後サポートノートという事業がある。好物や好きな音楽、機嫌が良くなる方法とか、うちの子はこういう子なんだとノートに書いてもらい、行政が責任をもって預かる。親御さんが亡くなった後、子が施設に入ったら施設側に引き継ぎ、ノートの内容が実行されているか確認作業を行っている。

## 市職員の数について

### 【市民】

市の職員について、正規職員を減らして非正規職員を増やしているように見受けられるが、それによって正規職員に負担がかかったり、市民へのサービスが低下したり、自治会への依頼事が多くなったりすることはないのか。

### 【市長】

この問題は結構難しい。職員の負担を月の残業時間で考えると、昔は 80 時間とか 100 時間を超える職員が多くいたが、現状は 45 時間を超える職員はいない。実際の残業時間の平均は大体 10 時間以内であり、オーバーフローしていることはないと思う。

また、職員の数は人口の減少と DX の推進により、今後必要な数は減っていくと想定している。人口減少は寝屋川市だけの話ではなく、2050 年には人口が 1 億人を切ると言われている。DX の推進は、例えば将来窓口業務が無くなったり、様々な業務がシステムに置き換わってスマホで出来るようになったりすると、20~30 年の間に総業務量の 20% くらいが不要になる可能性があり、現状の業務量で必要な職員数を確保すると、余剰の職員を抱えて人件費が高くなり、経常収支比率が 100 を超えるという状況が考えられる。市の正規職員は新卒で雇うと 40~45 年、定年が延びるとそれ以上雇用し続けることになり、将来業務量が減ったからといって職員数を減らすということはできない。民間企業であれば売上が下がり工場が閉鎖したから従業員を整理・解雇することもあり得るが、地方公務員は地方公務員法により身分保障がなされているため、職員数が減るであろう将来に合わせながら調整をかけて採用していく必要があると考えている。

## 道路や河川の維持補修について

### 【市民】

4年間の市の予算を見てみると道路や河川の維持補修費が一定なので、例えば4年間のうちの1年間はこれらの維持補修に特化するなど、生活に密着した予算の使い方を検討してほしい。

### 【市長】

予算の使い方にメリハリをつけるのは有効なので検討しようと思っている。景観も含めて道路や街路樹の在り方について、現在担当課と議論している。

例えば、街路樹については落ち葉の問題で道路にはみ出さないよう枝を切り続けた結果、幹から葉っぱを生やしている。見た目の問題もあるが、生き物として木に対する尊厳がなかったり、他にも街路樹の根上がりがあるので、良い方法を考えていきたい。



## 小・中学校の教育について

### 【市民】

寝屋川市はディベート教育を強化しているが、義務教育の間は普通教育（社会的共通の知識や能力を身に着けること）が大事なのではないのか。

### 【市長】

教職員にディベートに関するアンケートを行ったところ、最初はディベートに対して懐疑的な教職員もたくさんいたが、昨年同様のアンケートをとると、98%ほどの教職員が有効であると回答している。相手の考えを認め、自分の考えもしっかりつくり上げることができるディベート教育は、各教科の勉強のベースになり、論理的な思考を鍛えることになるため、積極的に推進していきたいと考えている。

## 自衛官等募集事務に係る対象者情報の資料提供について

### 【市民】

防衛大臣からの資料提供依頼により、自衛官等の募集のために必要な住民基本情報を市が提供している。情報提供を希望されない市民のために除外申出という制度もあり、個人情報の取扱いをしっかりとしてほしい。

### 【市長】

自衛官等の募集に係る情報提供については、個人情報の保護はしっかりと守っていく中で、必要な情報の提供に努める必要があると考えている。

自衛官の募集事務については、法定受託事務であり、国の要請に基づき対応している。また、令和5年12月から除外申出制度を設けており、引き続き、周知に努める。

## 生涯学習施設について

### 【市民】

生涯学習として市民が平和について学べるような場所を作ってほしい。

### 【市長】

生涯学習の拠点は、寝屋川市駅前にできる予定なので、ぜひ活用してほしい。

## 小・中学校の給食について

### 【市民】

小・中学校の給食に無農薬、有機野菜等の食材を使うことを検討してほしい。

### 【市長】

将来的にはあり得ると思う。今は物価高騰で、さらに保護者の負担を増やすことになるので今すぐにとすることは難しい。国が小学校給食の無償化について議論をしているので、仮に国が負担してくれたとしたら、市がこれまで使っていた財源を活用しながらより良い給食を提供する時代が来るのではないかと考えている。

## 農機具の補助について

### 【市民】

農機具を新たに購入することが難しく 30～40 年前のものを使っている。市が補助することを検討してほしい。

### 【市長】

個人農家に対する補助は難しいが、市内で大規模な農園をやっているところであれば検討できるかもしれない。稼働がほとんどないような農機具に対して補助することは難しいため、農業に携わる皆様で工夫して、農協も含め共同購入をするとか稼働率を上げるような方法など考えてもらいたい。

## 墓や葬式について

### 【市民】

民間の葬式屋が増えているが、市にある火葬場を活用して葬式や墓を安く提供するようなことは考えていないのか。

### 【市長】

市民葬儀というものがあり、一定の要件を満たす指定の民間業者が取り扱っているが、市が決めた最低限のレギュレーションに沿って実施しており、多くの市民が既に使っている。

お墓については、倍率は高いけれど市営の墓地がある。また、納骨壇があり、上段は抽選となるが、下段は空きがあって随時募集もしている。

## 南小学校区（11月5日実施）

### 南幼稚園跡地の活用について

#### 【市民】

寝屋川市駅周辺や香里園駅周辺は発展されていくが、萱島駅周辺は文化的な施設がないことで発展していかない状況のため、地域の意見を聞き、南幼稚園跡地に文化的な施設をつくっていただきたい。また、道路の拡張について知りたい。

#### 【市長】

公共施設の整備については、今後も人口減少が進む中、新たに床面積を増やしたり、現状を維持していくためには、現在の市民1人当たりの負担からより多くの負担を求めていく必要がある。市民負担をそのままに公共施設を維持するためには、床面積のダウンサイジングが必要であると考えている。また、公共施設の配置についても検討を進めており、例えば、市役所の窓口や図書館のような全ての市民が使うサービスはターミナル施設として、交通の結節点である市の中心部（寝屋川市駅周辺）に配置している。また、学校園、公園、コミュニティセンターなどの地域に密着する施設は、地域施設としてどの地域にも公平に配置する。今後見直しが必要な施設は、全ての市民が使うサービスでありながら、地域に存在する施設であり、この考えから南幼稚園の跡地に、全ての市民が利用する施設を整備することは考えていない。ただし、本来はターミナル施設として市の中心部に配置しなければならないもので、例えば自習室や子育て相談窓口のように日常的に利用するサービスについては、準ターミナル施設として、ターミナル施設の機能の一部を分散したブランチの配置を計画している。このような施設は現在、萱島駅周辺や香里園駅周辺にはないため、今後設置したいと考えている。

道路の拡張（都市計画道路 萱島讚良線）については、萱島駅と第二京阪道路及び八尾枚方線につながる道路を整備する。道路整備だけでまちが活性化するわけではないため、民間事業者等の知見を活用し、現在かやしまりノベーションプロジェクトとして検討を進めている。

## 萱島駅前の商店街について

### 【市民】

萱島駅前の商店街の中央に道路をつくと聞いたが商店街の活性化についてどう考えているか。

### 【市長】

萱島のまちの活性化は難しい問題であると考えている。例えば、寝屋川公園駅周辺は以前までは高齢化が進み、人口減少、路線バスの減便、駅前の商業施設が撤退し、活性化が難しいと言われていた。ただし、マーケティングで考えたときに経営資源となる緑豊かな寝屋川公園が近くにあり、道路を整備し、新たに訴求力のある学校をつくれば、競争優位を確保できると考えた。実際に、今寝屋川公園駅周辺は人口増加が顕著なエリアである。一方、萱島駅周辺は、学校を建設する場所や近くに緑豊かな公園があるわけではないため、新たに経営資源を創り出し、競争優位を確保する必要があると考えている。



## 公共交通機関について

### 【市民】

河北、堀溝地域の交通機関について、本当に困っている方が多い。交通機関について今後どのようなイメージを持たれているのか。

### 【市長】

公共交通機関の在り方は本当に難しい。京阪バスの撤退は何とか止めたいと考えているが、京阪バスが撤退するからといって行政で代替の事業を行うと、ますます撤退していくことになりかねない。ただし、交通不便地域と言われているところには、市として現在乗合い事業を行っているが利用者は極めて少ない。交通不便を言われている方々の需要と実際の需要がずれている可能性があるため、調査しているところである。

## 小一の壁について

### 【市民】

保育児の預かり時間と小学校の登校時間に最大一時間ほど差があると言われている。小学校の登校時間を前倒しすることで保護者の負担軽減につながり、子育て支援につながる。なかなか難しい問題かと思うが、学校の授業後の子どもたちの見守りについては留守家庭児童会が整備されているため、朝の時間帯のタイムラグに焦点を当て、よりよい子育て支援として取り入れていただきたい。

### 【市長】

寝屋川市の各学校長にヒアリングを行っているが、児童が朝、門の前に並んでいるケースはほとんどないとのことである。豊中市が小一の壁を解消するため、開門時間を早め、朝学校が預かる仕組みを導入したが、かなり賛否が分かれた。導入に当たり、非常にたくさんの需要の声がありスタートしたが、実際は利用者が各校1日当たり1人か2人にとどまり、特定の方の声が集まっていたと言われているので、そこは冷静に判断しないといけないと考えている。

## 地域の担い手不足と手続の一本化について

### 【市民】

萱島地域の多くはボランティアの方の助けで日常生活等が保たれていると実感しているが、そのボランティアの方たちが高齢化で辞められると、その分は埋まらないため、相談窓口を作っていただきたい。また、亡くなる方をたくさん見てきたが、家族の方が死亡届や関連する手続を一か所で行えるような施策を検討していただきたい。

### 【市長】

地域の担い手が課題だということは、認識している。自治会の加入率が落ち、自治会の役員や民生委員の担い手がいなくなり、地域が回らなくなるのではないかという危機感をお持ちの方はたくさんいる。そこで、新たに地域コミュニティ活性化推進条例を制定した。これは地域と行政の役割を明確にして、例えば、災害時に避難所の運営や人命救助など、地域で命を守るために自治会に加入してくださいといったメッセージを出せるようにした。また、新たなチラシなどによりメッセージを発信するなど、若い世代や次の担い手が育成されていくための必要な手立てを考えている。地域にお願いしている業務をどれだけ圧縮できるか、担い手不足のなか、地域の負担を少なくしていくことも必要と考えている。

関連する手続の一本化については、既にサービスゲートで行っており、市民を動かさない、市民を待たせない、市民の事情>（大なり）行政の都合という市民サービス改革の3原則の観点から、ワンストップ窓口を実施している。

## ターミナル化構想の今後の課題について

### 【市民】

ターミナル化構想について、行政機能を寝屋川市駅周辺に集約された結果として、これまで使ってきた市民の利便性を考えたときに、今後の課題等があればお伺いしたい。

### 【市長】

ターミナル化構想の一番大きい点は、公共交通機関の結節点である寝屋川市駅周辺に公共施設を集約していること。また、市のどのエリアからでも平等な距離で行けることも重要な点である。ただ、交通の結節点ということが前提なので、公共交通のバスが切れてしまうと困る。将来的にはそういったことを考えなくてはならないと考えている。また、公共施設の集約化、ダウンサイジングについては、床面積は少なくなるが、利便性がきちんと確保されるという前提で行えば、床面積当たりの利用者数が増加するが、床面積を減少させつつ、利用者数を増加させる工夫が難しいところである。

## 市の情報の伝え方について

### 【市民】

乗合い事業でバス停まで行けるということを知らなかったため、広報誌等を通じて多くの方にアピールしていただきたい。

### 【市長】

乗合い事業については広報誌、自治会の回覧板や説明会など、あらゆる機会を通じて説明を行ってきているが、なかなか伝わらない現状がある。また、サービスゲート設立時においても、あらゆる媒体を活用して周知させていただいたが、間違えて市役所に来られる方がたくさんおられた。こうした状況を踏まえると情報の伝え方については、先祖返りした形で実施することも考え方の一つとして、現在、市の内部で検討しているところであり、例えば、江戸時代の高札場のような多くの方が目にするような場所で、それを見れば行政からのお知らせがすべて分かるようなものがあったとしても良いと考えている。

## 防災無線について

### 【市民】

寝屋川市の南西に住んでいるが、放送が全然入らない地域がある。今後災害のことで大事になると思うので放送設備の見直しをお願いしたい。

### 【市長】

寝屋川市の今の防災無線は市内の5割～6割程度しかカバーできていない。多くの方が聞こえていない状況で問題があるため、更新の時期にあわせ、実は今年度防災無線をすべて新しいシステムに切り替える。9割以上の市域をカバーできるような超指向性スピーカーを配備している最中である。テストした上で切り替え作業中である。



# 神田小学校区（11月11日実施）

## 神田幼稚園跡地について

### 【市民】

神田幼稚園の跡地活用について地元住民と行政とで話し合いたいと各部署に伝えているが、実現されない。

### 【市長】

市の方針として、今後、人口減少が進む中、市民負担をそのままに公共施設を維持するためには、現在の公共施設の床面積をダウンサイジングしなければならない。また、公共施設の配置について市民全体が利用する施設（ターミナル施設）は市中心部に集約をしていく。地域施設（学校・公園など）は、地域に密着した施設としてどの地域にも公平に配置されるべきであり、特定の地域にのみ存在する施設は不公平である。例えば、成美小学校区にはエスポアールがあり、ターミナル施設でも地域施設でもないが、その地域だけに存在している。今後、こうした地域に偏った施設については見直しを行う可能性がある。

こうした考えから、神田幼稚園の跡地に新たな公共施設を配置することは難しいと考えている。仮に、地域に提供することを考えるのであれば、贈与ではなく、市場価値での公平な売却を行うべきと考えている。また、第四中学校跡地・梅が丘小学校跡地にも地域からの要望はあるが、同様の内容を伝えている。どの地域にも「こんな施設があったらいい」といった希望は存在するが、実現は難しい。そのため、希望があれば、正当な価格での売却もしくは貸し出すというものの相談を受けることは可能だと考えている。ただし、現時点では市の方針が固まっているわけではなく、これらは市長としての考えであるため、担当課ではお答えできない場合があることを御理解いただきたい。

## 池の里市民交流センターの施設整備について

### 【市民】

池の里市民交流センターに、パドルテニス用のコートを作ってほしいという要望を伝えているが、実現されていない。

### 【市長】

すべてのサークルの要望に応じることは現実的に難しい。施設を利用しているサークルやスポーツが多岐にわたるため、それぞれの要望をすべて聞くことは難しい。

## 小中一貫校の計画について

### 【市民】

子どもの数が減少してきているが、神田小学校区でも小中一貫校の計画はあるのか。

### 【市長】

小中一貫校は一つの選択肢ではあると考える。現在、寝屋川市は、子育て世代の流入を促進するための政策を実施しており、望が丘小学校区は小中一貫校を建設したことで若い子育て世代の流入が多いエリアとなったため、学校への投資は有効な施策であると考えている。一方で、今までは子どもの数が減少した場合に、統廃合や校区の見直しを行ってきたが、地域のコミュニティは小学校単位でしっかりと形成されていることから、このやり方が本当に最適かという疑問もあり、小規模校が悪いというわけではない。

公共施設の集約・複合化を進める中で、適切な対応をしていきたい。

また、他の自治体では、建設された年代が異なるため、まだ校舎が新しい学校と校舎が古い学校を統合する必要がある場合が多いが、寝屋川市は同じ時期に多くの学校が建設されているため、集約化は比較的容易に進められると考えている。一気に集約化を進めることは、デメリットとされがちであるが、コスト削減につながる機会として捉えている。

## 学校のバリアフリー化・エレベーター設置等について

### 【市民】

身体に障害のある子どもがいるが、中学校に進学するにあたり、エレベーターがないことや、昇降機での移動に時間がかかることから、教室移動などに不安がある。支援学校に通うべきとの考えもあるだろうが、できるだけ今の友達と一緒に地元の学校に通いたいと思っている。学校のバリアフリーについてどう考えているか。

### 【市長】

施策には二つの観点がある。まずプラスアルファの観点として、あったら便利というサービスがある。一方で、なければ通常の生活が困難になる場合、その困難を解消するための必要な対応を行政が責任を持って実施する必要がある。エレベーターや昇降機等はすぐに対応できるかという難しい。学校や教育局との調整が必要であるが、教室の位置変更などが可能かどうか等、具体的な対応方法を検討する。



## 小学校のプール授業の暑さ対策について

### 【市民】

子どもたちのプール授業について、神田小学校では6月でプールの授業が終了する。7月から9月にかけては暑すぎてプールを使用できない。タープを張って日差しを遮るなどの対策はできないか。

### 【市長】

近年、夏の暑さが限度を超えているため、教育部局にはこの問題について、改善策の検討を依頼している。例えば、プールにネットを張り、グリーンカーテンにして、日差しを遮ることが考えられる。この方法であればコストを抑えつつ、簡単な構造で効果を得られることが期待される。今後、検討を進め、改善に努めていく。

## 転入超過について

### 【市民】

令和6年は431人の転入超過と説明があったが、子どもがいるとまちが活発で元気になるので、特に若い世代が増えていることを期待している。具体的にどの世代が増えているのか、分かる範囲で教えてほしい。

### 【市長】

望が丘、東、堀溝小学校区では、特に若い世代が増えている傾向が見られる。寝屋川市では、子育て世代に選ばれるまちづくりを意識して発信しており、いじめのない教育環境などが転入者にとって魅力的な要素となっていると考えている。

また、メディアでの報道効果も大きいと感じており、ニュースや新聞に取り上げられることで、広告としても非常に大きな効果がある。過去には広告費をかけて、施策を周知して転入促進を試みていたが、今後は対外的に訴求力のある施策を引き続き行うことで、中身とメッセージ性の強い施策を通じて、より効果的に転入を促したいと考えている。

## 萱島の道路とまちづくりについて

### 【市民】

萱島で整備している都市計画道路 千里丘寝屋川線（大阪府事業）について、道路幅が32メートルあるので、例えば、道の駅を作るなど、人が集まる活用法を検討してほしい。

### 【市長】

都市計画道路 千里丘寝屋川線は大阪府が行っている事業であり、寝屋川市として直接的に関与しているわけではないが、道路が整備されることで必ずしもまちが発展するわけではないと考えている。具体的に新たな公共施設の整備を行う予定はないが、萱島のまちづくりについて検討しており、萱島周辺を一体的に整備していくことが重要だと考えている。



## 遠隔窓口の拡大について

### 【市民】

実際にサービスゲートで手続をワンストップで進めることができ、便利さを感じた。ターミナル化構想で集約したあと、他の公共施設でも遠隔窓口を拡大したらどうか。

### 【市長】

現在、遠隔窓口は主に保護課・高齢介護室・障害福祉課の手続に使用されており、オンラインでつなげられるシステムを構築している。まだ実施はしていないが、他の部署においても使用できる仕組みとしている。

公共施設は、市民全体が利用するターミナル施設、学校・コミュニティセンターなどの地域施設、その中間となる準ターミナル施設の3つに分けて整理している。望が丘小学校・中学校内には望が丘ランチという準ターミナル施設を設置し、図書スペースや自習スペースを提供している。同様の施設を香里園や萱島にも設置する予定であり、そこでオンラインでのやり取りを可能にし、市民が便利に活用できる場所を提供していくことは可能と考えている。他の公共施設でも同様に遠隔窓口を導入するか検討し、市民の利便性を向上させる取組を進めていく。

## 自治会の担い手不足・加入率低下の問題について

### 【市民】

下神田は若い世代が少なく、どのように自治会を運営していけばよいか、アドバイスをいただきたい。

### 【市長】

担い手不足や自治会の加入率低下は以前からの課題である。今年度、地域コミュニティ活性化推進条例を制定し、自治会への加入を市として推奨できる仕組みを整えた。これにより、単なる任意加入ではなく、条例に基づいて加入を促進できるようになった。

さらに、自治会加入促進のため、大規模災害への備えを強調したチラシを新たに作成し、自治会と転入者に配布する。このチラシでは、大規模災害発生時には、公的支援が届かない時間帯が想定されることから、自治会が避難所開設・運営や人命救助等で重要な役割を果たすことを強調し、自治会に加入することが自身の命を守ることにつながることを理解してもらえらるような内容にしている。

また、昨年度に実施した市民大訓練では、地域の方々の災害時の役割を明確にし、自治会加入の必要性を感じてもらうための取組を行った。

これらの取組を通じて、地域の役割を理解してもらい、自治会加入の意義を高めていく考えである。

下神田については、萱島のまちづくりの影響を受ける地域であり、若い世代が住みやすい環境を整備することで、将来的に人口の流入を期待している。駅に近く、家賃相場も比較的低いことから、若い世代に選ばれるポテンシャルがあると考えており、引き続き取り組んでいく。

## 保育所園の入所調整について

### 【市民】

全国的な問題かもしれないが、保育園に入りにくい状況が続いており、きょうだい優先枠があるため入所できなかった。もし「ここまで待てば入所できる」といった見通しが分かれば、保護者として希望が持てるのではないかと考えている。こうした状況をどのように改善していくのか知りたい。

### 【市長】

保育所園の入所調整方法については、令和8年4月入所分から大幅に変更している。これまではきょうだいがいることで優先的に入所調整を行っていたが、子どもが別の施設になる場合の時間を指数に加える加点制度に見直した。

また、従来は第1希望から第3希望まで記入したうえで、全園を対象に職員が膨大な調整作業を行っていた。施設の大きさや先生の数等を踏まえると、すべての方の希望を叶えるのは物理的に不可能であるが、「第1～3希望まで書けばどこかには入れる」という期待を保護者に与えてしまう問題があった。

新制度では、1次募集および2次募集を専願制とし、1つの施設のみ希望を出す方式へ改め、希望園の倍率及び自身の指数が事前に把握できる仕組みとした。例えば、駅近など人気の高い園は倍率が上昇し入所が難しいが、倍率は低いが自宅から少し距離のある園を選べば1次募集で入れる可能性が高まるということが、保護者にわかるようになっていたため、どこまで許容できるかを保護者が主体的に判断し、生活状況に応じて選択できる制度とした。

併せて、これまでの指数制度についても見直しを行った。今後は就労・就学・介護などにより「子育てができない時間数」(通勤時間、休憩時間を含む)をそのまま指数化し、より公平な算定方式とした。例えば、自宅近くの園に、きょうだい優先だからといって通勤時間のない自営業者の方が優先されるのではなく、勤務時間が長く通勤負担の大きい家庭が優先される仕組みとなり、保護者の生活状況に応じて公正に入所機会を配分する制度へ進化させたものである。

寝屋川市は待機児童ゼロのため、こだわらなければ入所はできるが、人気の高い園に申し込む保護者が集中すれば、当然ながら全員が入所することはできない。倍率・指数を公開し、保護者自身の選択の結果を理解できるようにするこ

とで、なぜ希望する園に入れなかったのか、納得できる環境を整えることを目指している。

公平性と透明性を高め、保護者が自ら選択し納得できる形で入所できる環境を整備していくことが本制度の目的である。



## 点野小学校区（11月18日実施）

### 水路の水を流す期間について

#### 【市民】

葛原地区にある水路について、通年水を流すことはできないのか。農閑期に水がほとんど流れていない状態だが、その間は水路にゴミが溜まったり藻が生えたりしている。自治会で清掃活動もしているが、回数が限られるため検討してほしい。

#### 【市長】

通年水を流すことについては、水利権の問題等で難しい。ただし、同じようなケースでいうと、昔は寝屋川市駅前を流れる寝屋川が汚かったが、導水路を整備し、淀川から流水することで常時水が流れる環境に変えたところ、川が綺麗になって魚も増えた実績がある。水の流れを保つことは、より良いまちづくりを進める中で必要なテーマであり、調整したいと考えている。

### 桜の植替えについて

#### 【市民】

点野団地横の幹線水路にある桜が老木になっている。大阪府の事業で苗を提供してもらえると聞いたため、市に植替えを提案したが、下水道事業室から土手の管理上の理由で断られた。今後も植替えの予定等はないのか。

#### 【市長】

昔は水路の土手に木を植えても良しとしていたが、安全面として台風等のときに土手に植えた木が土を掴んだ状態のまま倒壊するリスクがある。他自治体では、地元から寄付を募って河川の桜並木を植替えたが、直後に国から指摘を受け、全て木を抜いた事例がある。条件によっては植替えが認められるケースがあると考えられるため、状況に応じて判断する必要がある。

また、道路や公園を含め、市全体の樹木の在り方を現在検討している。

## 子どもの遊び場について

### 【市民】

小学生が公園で遊ぼうとすると、近所迷惑等の理由でボールが禁止され、満足に利用できない。こういった子どもたちの遊び場について、どのように考えているのか。

### 【市長】

公園のリニューアルについて、これから期間をかけて行う予定である。市内には大小様々な公園があるが、これまでは小さな子どもからお年寄りまで全ての世代が使える公園をつくらうとするあまり、かえって全ての世代が満足できない公園になっているため、それぞれの公園ごとに役割を分担する必要があると考え、検討を進めている。

また、ボール遊びができる場所がないという声に対し、放課後の小学校をボール遊びができる公園として開放する「ねやがわスクールパーク」を令和7年4月から実施している。小学校の校庭が使用できる平日や長期休暇中などの期間、その小学校に通う1年生～6年生の子どもが利用できる。小学校であれば、平日頃から授業等でボールを使っており、公園の様にボール遊びが危ないと言われることがないことから、活用に至った。

## 通学路の安全対策について

### 【市民】

通学路が危ないため、例えば道路に歩行者通行帯の線を引く等の対策を考えてほしい。

### 【市長】

地域が対策を必要だと合意した上で、警察の許可が下りる場所であれば歩行者通行帯の線を引く等の対策をしたいと考えているが、道路幅の関係等で警察の許可が下りない場合もある。

また、できるだけ住宅街の中を通学路として設定することを学校や保護者で検討していただく必要がある。きちんと議論した上で、どうしても危ない場所を通らざるを得ない場合で物理的に線を引けるということであれば、対応を考える。

## 公園の草刈について

### 【市民】

10月に市の委託業者が公園の草刈を実施していたが、草刈機の音が大きく、近所の方が何事かと驚いていた。

草刈の実施日について、自治会から回覧板で事前に知らせる等の対策をしたいため、事前に告知してほしい。

### 【市長】

これまでは要望をいただいたらその都度草刈を実施していたが、令和6年7月以降、コミセン単位であらかじめ草刈の時期を定めて実施している。草の繁茂状況や天候によるが、実施時期が比較的明確になっているため、事前にお知らせするようにする。

## 乗合い事業について

### 【市民】

乗合い事業について無料での利用形態から回数制限に変わり、不便だと感じている。

### 【市長】

乗合い事業は公共交通網が十分に機能していない地域のためにスタートさせた。当初は専属の運転手を配備した乗合いワゴンとして実施した。上手くいけば対象地域を拡大する考えであったが、実際には利用者がほとんどおらず、ごく一部の方だけが頻繁に利用される状態であった。それでも交通網を確保することは重要だと考え、実証実験を繰り返したが、車を維持し、専属の運転手を配備するための十分な数の利用者が得られなかったため、タクシー会社に依頼して対象地区内の目的地まで送迎する内容に変更したが、利用者は増えなかった。一部の利用者だけがほぼ専属で使い続けるということは本来の目的と異なるため、無料での利用に制限を設け、買い物や通院で最低限必要と想定される回数を保証する運用へ改善を図った。

## 市内人口の外国人の割合について

### 【市民】

寝屋川市は近年転入超過となっているが、外国人の割合はどうか知りたい。

### 【市長】

外国人の割合は一定数あり、転入超過はやや増加傾向にあるものの、直近でいうと令和5年度より令和6年度の方が少し減っている。

ただ、本市に限らず、あらゆる場面で外国人の方が雇用されていることは事実であり、今後ますます外国人の人口は増加するのではないかと考える。

## 道路における迷惑行為について

### 【市民】

市内の道路でバイクが暴走している様子を見た。市と警察で暴走等の迷惑行為を抑制するような取組はできないのか。

### 【市長】

道路交通法による取り締まりは警察が管轄しているため、難しい問題であるが、バイク等による暴走や騒音等の迷惑行為を理由に市の価値が下がると考えている。警察においても、様々な犯罪への対応がある中で、暴走や騒音等の迷惑行為への対応の優先順位が低くなっている可能性がある。本当はもっと取り締まりたいけれど、取り締まれないといった点も現実にはあると考える。

行政ができることとしては、例えば道路交通法で違法とされていない部分を市の条例で規制することで、条例もルールであるため、内容によっては警察を動かすことができると考える。迷惑行為に対しても、寝屋川市に取り締まる条例があれば抑止力につながると考えており、確立に向けて研究していきたい。

## 高齢者の買い物支援について

### 【市民】

地域の買い物に困っている高齢者に対し、社会福祉協議会と相談して車を出せる人が買い物支援を行っている。今後、この体制が難しくなった場合、どのように支援を進めたらいいのか不安に感じている。

### 【市長】

買い物等の交通手段について最初に考えた対策は、現在の乗合い事業のような対象地区内の目的地まで送迎する仕組みを市内全域に整備することであったが、乗合い事業の利用状況から利用者が見込めず難しいと判断した。

次に検討していることは、民間のスーパーマーケットの宅配サービスのエリアを交通の不便な地域に拡大してもらうこと。高齢者の健康面を考慮するとご自身でお店まで買い物に行っていた方が良いが、場合によってはこういった宅配サービスなども上手く取り入れていただきたいと考えている。使い方が分からない方に対しては、市で利用方法を説明したりすることを考えている。住み慣れた地域に住み続けることができるまちをつくっていきたいと考えているため、買い物支援等の在り方について引き続き検討していく。



## 災害時の避難先について

### 【市民】

守口市との市境に住んでおり、災害時に避難先である点野小学校まで歩いていくことが難しい。守口市内の小学校へ行く方が近いのだが、市が違って受け入れてもらえるのか。

### 【市長】

災害発生直後に命を守るために緊急的に指定避難所以外に避難することは、駄目だとはならないと考える。ただし、避難所で生活をしなければならなくなるとき、守口市の責任で寝屋川市民の安全と生活を確保することは難しいため、何らかの手段で寝屋川市の避難所に移動していただきたい。歩行が困難な方に対しては、公用車を含め、何らかの手段で移送する必要があると考えているが、災害時は優先順位を決めて対応することになるため、できるだけ自力での移動に協力いただきたい。お住まいの地域の指定避難所にさえ来ていただけたら、市で責任を持って対応する。

## 市西側の開発について

### 【市民】

自分が住んでいる地域は40年経っても不便のまま。今後、開発されていくことはないのか。

### 【市長】

本市に限らず、人口が減少している上に、若い世代が駅から徒歩圏内の中心市街地の住宅を好む傾向があるため、中心市街地に店舗や様々なサービスが集約されることはやむを得ないと考える。

## マラソン大会について

【市民】

寝屋川エンジョイマラソンの規模を拡大していく予定はあるのか。

【市長】

コロナ禍以降、需要が変わって応募者数が増えず、費用対効果が合わなくなっている。需要が少ないものに対し、規模を拡大することは難しいと考えている。

## ジョギングコースについて

【市民】

市内にジョギングコースを作る予定はないのか。

【市長】

打上川治水緑地では色々なコースがあるが、新たに何か作れないか考えている。例えば、新しく整備した対馬江大利線や駅前を使って特にシルバー世代の方が安心して走れるような環境や足腰を鍛えるために必要なものを検討したいと考えている。



## 北小学校区（11月20日実施）

### 災害対策について

#### 【市民】

災害時における共助、公助について、市としてどのように考えているのか。

#### 【市長】

災害時対応の在り方としては、公助として行政でできるものと共助として地域にお願いするものを明確に分けた上で、それぞれの役割を認識しなければならないと考えている。なぜなら、発災直後、おそらく24時間は消防にいくら電話をかけても通じず、救助を望むことが難しい状況になる。市職員には参集をかけるが、被災している中、人命救助を含めて地域の方々の救助に出ていくのはなかなか難しいと考える。この発災直後の一定時間は地域に避難所の開設や運営、人命救助などを行っていただくかなければならない。そのためにも、学校の体育館に電動チェーンソーや油圧ジャッキを配備している。

令和6年度に実施した市民大訓練は、消防や行政が到達できない時間帯があることを知っていただいた上で、命を守る取組は地域に行っていただくというように、公助と共助の線引きを認識いただくことを目的に実施した。

## 地域の担い手不足について

### 【市民】

市のホームページにて公表されている地域コミュニティ活性化推進条例の解説を見ると、若い世代に活躍してもらおうとあるが、加入の促進は自治会単独で行うのか。それとも市で支援していただけるのか。

また、被災したときに一番大事なのは共助だと考えているが、今後自治会や地域協働協議会の活動を活性化させる考えはあるのか。

### 【市長】

地域の担い手の中心となる自治会の加入率が地域によっては 50%に満たないところがある。自治会の加入率が減ると担い手どころかコミュニティ自体が成り立たなくなるため、コミュニティを維持する方法がないかという相談を自治会からよく受ける。その一方で、市はこれまで自治会への加入はあくまで任意であるということしか答えられず、自治会への加入を後押しできない状況であった。そのため、令和7年3月に地域コミュニティ活性化推進条例を制定した。条例では、市が自治会への加入を促進する立場であると定め、これにより職員も条例に基づき、自治会や地域コミュニティの維持及び活性化を図るために必要な施策に取り組むことができる。

また、自治会への加入が災害時に命を守ることに繋がるということが伝わる内容とした自治会加入促進のチラシを新たに作成したり、あくまで自治会は自治組織であるため、行政はあまり介入できないが、各自治会での工夫や成功体験、ノウハウなどは市でまとめて、共有していきたいと考えている。

## 保育所園の待機児童について

### 【市民】

今1歳の子がおり、保育所入所の申請を続けているが、難しい状況にある。認可外の保育園やショートステイのような方法しか子どもを預けられないのか。

### 【市長】

他市では待機児童が存在している一方で、寝屋川市では園を選ばなければ年度途中で必ずどこかの園を紹介できる体制であるため、待機児童はゼロとなっている。重要なのは、希望する園に入れなかった状態を指す隠れ待機児童の問題である。特定の園を希望した全員がそこに入所できる状態というのが隠れ待機児童がない状況であるが、全てを受け入れるのは不可能なため、物理的に隠れ待機児童がゼロになることはないと理解していただきたい。

令和8年4月の入所申請では、1次募集および2次募集については保護者が希望する園を1つだけ記入し申請する方法に変更した。また、園の倍率と申請者の指数を公開し、希望する園がどのような状況なのか、なぜ入所が難しいのかが保護者にわかるようにしている。

その上で自らの生活状況に応じ、納得できる選択をしていただきたい。



## 市内の美化問題について

### 【市民】

美化運動（マナーアップ大作戦）に取り組まれていたが、具体的に何も変わっていない。特にたばこの吸い殻が道に沢山落ちているが何か対策は考えているのか。

また、駅前の喫煙所の煙が駄々洩れて近くを通るのが苦痛なので、なくしてほしい。

駅周辺に路上喫煙禁止区域の表示があるが、そのエリアだけが喫煙を禁止されているわけではなく、そこは罰金を取られる区域であって、路上喫煙自体は全ての道で禁止ではないのか。

### 【市長】

路上喫煙やたばこのポイ捨てについては、路上喫煙防止指導員などを巡回させて、指導などを行っているがなかなか無くならない。ごく限られた市民がマナーを守らない影響で市の印象が悪くなっていることから、今後、マナーやモラル違反の迷惑行為については、明確なルールの違反として警察との連携を含めて対処していく必要があると考えている。

喫煙所の廃止については、たばこを吸うこと自体を条例で禁止しているわけではない。喫煙所を用意しない状態で路上での喫煙禁止をかけていくのは難しいため、喫煙所は置かざるを得ないと思っている。

路上喫煙禁止区域については、市内鉄道4駅周辺を指定しその場所での喫煙を禁止しているため、大阪市のように市内全域で路上喫煙を禁止する場合は条例等での位置づけが必要である。

## 不登校児童について

### 【市民】

不登校の児童がいる家庭は、フリースクールの送迎や金銭面など親の負担が非常に大きいことを知ってほしい。

また、運動会が原因で不登校になっている児童が多いという話を聞いたが、苦手意識のある子に負担をかけず、みんなが楽しくできるようにはできないのか。

### 【市長】

不登校は非常に大きな問題だと捉えている。本市は現在、いじめ対策で全国から注目されている状態であるからこそ、何十年も解決しなかったいじめ問題に対する対策と同じように不登校の問題についても世の中や子どもたちに対して何らかのメッセージを出したいと考えている。

そのため、教育委員会を含めて不登校支援の在り方について検討を始めている。不登校の原因について、児童・生徒が学校に行きにくいと思った原因がいじめである場合は、監察課が中心としたスキームで解決していくことが可能だが、大人数での教育や運動会のような学校のマス教育に対して違和感がある児童・生徒に対する支援の手段を行政としてはまだ持ち合わせていないため、今後検討していく必要がある。

## バス停前のベンチ設置について

### 【市民】

日新町のバス停でバスを待っている間、近くの縁石に座っているが道路が狭く、自転車の交通量も多いため危険を感じる。市内にはシルバー世代が多いので、街にベンチを設置してほしい。

### 【市長】

ベンチを設置したい思いはあるが、歩道が狭く、ベンチを設置すると通行の妨げとなるため、警察から許可が下りない。ただし、シルバー世代にとって住みやすいまちにリニューアルするため、どうすれば幅の狭い歩道にベンチを設置できるかを引き続き、検討していく。

## 日新町の渋滞道路の対策について

### 【市民】

日新町には、スーパーマーケットのバロー、ロピア、アルプラザの3つが集まっていて、休日になるとアルプラザの北側と南側の道路が渋滞しており危険。一度、実態を見て対策を検討してほしい。

### 【市長】

大規模な店舗をつくる際には、周辺道路の渋滞回避のため法律に基づいて店の敷地内に進入路を確保するなどの対策が講じられている。しかし、現状は渋滞が起きているので、状況を見ながら必要な指導を行っていく。

## 市立中央図書館 西北分室の利用について

### 【市民】

寝屋川市立中央図書館の西北分室を利用しているが、もう少し開館日を増やしてほしい。

### 【市長】

図書館、図書室の在り方については、今後検討したいと考えている。

現在、事前に予約した市内図書館の本については、市内郵便局またはシティ・ステーションで受け取り、返却ができるサービスを実施しているので、ぜひ利用していただきたい。

また、望が丘ブランチという市民のみなさんが日常で利用できるスペースを望が丘小学校・中学校の中に設置している。読書や自習に利用いただいたり、子育て出前講座を実施している。今後、望が丘ブランチと同じ機能を持つ施設を香里園と萱島にも設置したいと考えているため、そうなれば図書館の在り方や機能にも変化があると考えている。

## タウンミーティングでの発言内容について

### 【市民】

今回、市長が説明されたことについて、関係課は同じ認識を持っているということによろしいか。今後、気づいたことについては各部署に意見や相談をしていく形でよいのかお答えいただきたい。

### 【市長】

私の発言と各部署の話がずれることはない。

今回いただいた御意見や私の発言については、報告書として校区ごとにまとめ、各担当課に共有する。いただいた御意見に対する進捗や回答が必要なものについては、担当課から回答させていただく。今後の市政については、広報誌などを通じ、どのように寝屋川市が変化していくのかを御覧いただきたい。



## 第五小学校区（11月25日実施）

### 中央高齢者福祉センターの移転について

#### 【市民】

中央高齢者福祉センターで行っている趣味の活動は、拠点がアドバンスねやがわに移った後も継続できるのか。

#### 【市長】

現在の中央高齢者福祉センターには2つの機能があり、1つは市全域のシルバー世代を対象とした健康増進や介護予防に関する相談や事業の実施、寝屋川市老人クラブ連合会の活動の支援などの「中核施設としての機能」、もう1つは地域のシルバー世代が健康増進や趣味の活動などで使う「活動の場としての機能」であり、今回の移転は前者の機能の移転である。市の中核施設としての機能は市の中心部に配置することが望ましいため、アドバンスねやがわ1号館へ移転する。

### 中央高齢者福祉センターの新館部分について

#### 【市民】

中央高齢者福祉センターの新館部分について、東北コミュニティセンターに管理が移管する可能性があるかと聞いたが本当なのか。

#### 【市長】

今後、担当部局等と協議を進めるが、人口減少が進む中、市民負担をそのままに公共施設を維持するため、集約化や床面積のダウンサイジングなどの工夫を行いながら、市民満足度を向上させることが重要だと考えている。

## 通院送迎のボランティアについて

### 【市民】

体が不自由な方の通院送迎ボランティアについて、人員が高齢化し、不足している。このままではボランティアそのものが消滅するのではないかと危惧しており、ボランティアを続けるべきか、続けるなら人員を増やす方法はないか、市長の考えを聞きたい。

### 【市長】

ボランティアは基本的に個人の意思によるため、行政として関わりにくく、難しい問題である。ただし、ボランティアがいなければ生活できないという状況はあってはならないと考えるため、行政の責任で対応を考えないといけない。この成田地区は、乗合い事業の実証実験を行っており、乗合いワゴンとして専属の運転手を配備して電話で呼んでいただけたら無料で対象地区内の目的地まで送り届けるという仕組みをスタートしたが、需要がなかった。送迎が必要だと言っていた一方で、利用者がほとんどいない。行政としては、利用されないのであれば予算を縮小せざるを得ない。

乗合い事業については、ワゴンによる運行からタクシー会社に委託する方法に変更したが、利用者に偏りがあり、一部の方がヘビーユーザーとして何度も利用する状況であるため、交通の足がどれだけ必要とされているかは慎重に判断しなければならないと考えている。

また、市民が便利だと感じる事業を行政が率先して行くと、民間企業が撤退するきっかけになるため難しい課題である。例えば、京阪バスが撤退した際に市が急遽ねや BUS を導入したことについて、もし事前に市が対策をとれることが京阪バスに伝わってしまうと、市は撤退を容認していると考えられかねない。民間企業の経営からすると、行政が市民の利便性を確保してくれるのであれば赤字路線は廃止した方が良くはらずであり、そのため撤退のきっかけになる便利なものを行政は作れないと考えている。ただし、市民生活が成り立たないような限度を超えた不便は、行政の責任として解消していかなければならないため、許容される範囲の中で公共交通網の整備を進めているところである。

## 大阪公立大学工業高等専門学校跡地について

### 【市民】

大阪公立大学工業高等専門学校の跡地について、住宅地として利用すると聞いたが、ハザードマップで浸水地域に入っていることから、果たして適切なのか疑問である。もっと他の使い途があるのではないのか。

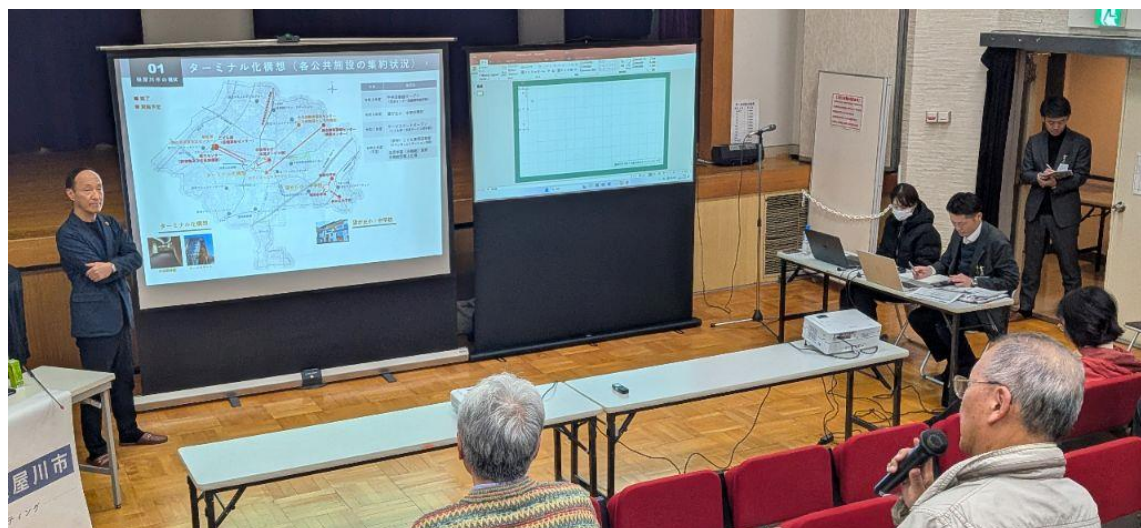
もし市民の意見を聞いてくれるのであれば、広報誌や民間のWEB媒体等を活用してアンケートを実施したり、小中学校で聞いてみたりしてはどうだろうか。

### 【市長】

ハザードマップにおける浸水範囲については、市域の多くが含まれている。それを理由に開発を認めないとはならない。

本市はシルバー世代の人口割合が高い状況であり、今後のまちを支えるため、若い世代、特に子育て世代の誘引が必要であると考えており、その受け皿として住居を含めたまちづくりを考えなければならない。約50年前、25万人まで増加した人口がその後減少している要因の1つは、開発の余地がなくなり、新住民の受け皿がなくなったことにあると考えている。そのような状況下で子育て世代の誘引を考えたときに、ポテンシャルエリアの1つとして大阪公立大学工業高等専門学校の跡地は住宅を始めとする新たな市街地を創出する機会であると捉えている。

このような市が存続するために極めて重要な判断をしなければならない場合は、市民アンケート等で意見を聞くのではなく、市の責任者の経営判断として行う考えである。



## プールの在り方について

### 【市民】

市民プールがなく、学校の屋外プールも炎天下の中では危険なので、屋内型のプールを市内につくっても良いのではないか。

### 【市長】

市民プールが無くなった経緯としては、施設を維持するために膨大な費用がかかっているにも関わらず、夏の一定の時期しか使用しないため施設の老朽化に伴い約20年前に廃止した。

小学校のプールの在り方については、中長期的には学校全体の建替等を進めていく中で検討できると考えているが、現状はプールだけを優先して屋内につくっていくことは選択肢にない。なお、望が丘小学校・中学校のプールは屋内型だが、水温が上がらなくて寒いという声も挙がっている。日差しを全て遮るとこのような問題もあるため、例えばグリーンカーテンで一時的に日陰ができる状態のプールをつくっていく等、方法を調査したいと考えている。

また、利用頻度を考えたとき、市民プールは土日や長期休暇の昼間をメインに稼働し、学校のプールは平日の昼間をメインに稼働していることからそれぞれのマーケットが異なり、これを活かさないかと考えている。例えば、学校を建て替えるとき、学校にプールを整備せずに市民が利用しやすい場所に屋内型のプールを整備することで、1つの施設で、市民プールと学校プールの両方ともマーケットが手に入る方法は、学校や公共施設の在り方を検討していく中で、1つの考え方であると考えている。

## 学校プールのセントラル（共同利用）化について

### 【市民】

先ほど話にあった1つのプールでちがう利用ができるのは有効的だと思うが、学校の授業として複数の学校が1箇所のプールに行くとする、先生の負担や移動時間の面から現実的ではないと感じる。

### 【市長】

学校プールのセントラル化については、既に行っている自治体が府内にある。実際の施設運用は、民間に委託して行っているため、学校の先生が施設の運用に直接関わることはない。移動時間についても、その自治体は本市より面積が広いが特段問題なく運用されており、多くの自治体でプールのセントラル化は行われ、本市の縦6km、横4kmという面積から考えると、他の自治体よりセントラル化を行いやすい環境かもしれない。

また、移動時間の面から移動方法にコストをかけるようでは運営面のコストが多く必要となり、本来のセントラル化の意味が無くなってしまうため、慎重に検討する必要があると考えている。

## 見守りパトロールカーの入れ替えについて

### 【市民】

地域の安全見守りのためのパトロールカーが古くなっているので、入れ替えを検討してほしい。

### 【市長】

必要であれば、どこかのタイミングで更新をかけないといけないが、日常的に長距離で使うものでなければ、できる限り工夫して使っていただくことになる。例えば、公用車はほぼ毎日の頻度で使っているため、走行距離がかなり長くなっており、いざというときの対応も考えておかないといけない。入れ替えについては、優先順位を考慮し考えたい。

## 災害対策用の井戸について

### 【市民】

各小学校に災害対策用井戸を掘ろうとしているが、そう簡単に水源を得ることが可能なのか。

### 【市長】

当然調査はするが、一定の深さまで掘れば問題ないと考えている。ただし、地下水は飲用に適さない場合があるため、適した場所を見極めないといけない。どの深さまで掘るかによって水質が変わってくるが、飲用のためのプラントは作らないといけないと考えている。



## ねやちよ筋プレミアムについて

### 【市民】

広報誌でねやちよ筋プレミアムについて読んだ。食事や運動の提案は記載されていたが、その先の話として運動施設の紹介等、欲しい情報は記載されていなかった。市民が気軽に行ける運動施設があれば良いのにと感じている。

### 【市長】

市の公共施設についてはその機能等により分類しており、1つはターミナル施設で、例えば市民全体が使うサービスを集約した寝屋川市駅周辺の施設のこと。それ以外に地域施設として、地域に密着した施設で、例えば学校や幼稚園・保育園、公園等が該当し、地域に平等に配置する施設のこと。ねやちよ筋に関わる筋肉を鍛えてもらう運動施設は、シルバー世代の生活圏から考えると地域に密着した施設に分類され、可能であれば各地域に平等に設置したいと考えている。例えばプレハブのような簡易的な建物で、学校や民間のスーパーマーケットの駐車場みたいに地域の方の生活圏内に設置し、そこに集って運動していただけたら良いなと考えている。また、例えば午前中から昼頃はシルバー世代が使い、それ以降は学生や仕事帰りの方が使うといったことができれば、時間帯ごとの利用者数を確保できるため、投資に見合った効果が得られるのではと考えている。

ねやちよ筋プレミアムは、運動してくださいと呼びかけるだけのキャンペーンで終わるつもりはない。やるからには寝屋川市のシルバー世代は足腰が強くて元気な人が多いと周囲に言っただけのように、今後設備も含めて考える予定である。ただし、先ほど例に挙げた方法では公共施設の床面積が増えるため、理想は地域に平等にある学校の空いているスペースを活用できればと考えている。学校の校舎の在り方や使い方を工夫していかないといけないのではないかと考えている。

## 香里園駅高架下の今後の活用について

### 【市民】

香里園駅の高架下の活用について知りたい。

### 【市長】

市民全体の日常生活に必要なサービスについては、4駅周辺に配置する準ターミナル施設として位置付けており、例えば自習室や日常的な講座、本の貸し借り等は、各駅周辺に準ターミナル施設として設置したいと考えている。その第一歩として、望が丘小学校・中学校の中に望が丘ランチをつくった。同じように香里園ランチと萱島ランチを設置したいと考えている。問題は時期や場所をどうするかで、これから検討が必要だが、香里園については1番有力な場所は高架下である。ただし、香里園駅の高架化の完成には時間がかかる上に、本当に高架下という場所が適しているのか、考える必要がある。ブランドショップの路面店が魅力的なように、小さいけど良い場所が他にあるのではないかと、検討の余地があると考え。いずれにしても、自習室や本の貸し借り等ができる場所などを、香里園駅周辺においても検討したいと考えている。

## 災害時用トイレの整備について

### 【市民】

災害時用トイレの整備について、凝固剤及び便袋の使用には市民の協力が必要と思うが、誰が何を担当するか等の訓練をする予定はあるのか。

### 【市長】

災害発生直後はおそらく 119 番が通じず、市役所の応援も来られないという状況がある。そのときは人命救助や避難所の開設等を地域で力を合わせて対応していただく必要があることを令和6年度に実施した市民大訓練の場でお伝えした。その上で、令和7年度には各自治会や地域協働協議会において、準備物等について話し合っていており、災害時用トイレについては市からお願いをしている状況で、きちんと運用できる形にするため、現在取り組んでいるところである。



## Ⅲ 参加者アンケート結果

---

全世代タウンミーティングについて（どれか一つ）

設問	割合
とても満足	36.7%
満足	40.0%
やや不満	20.0%
不満	3.3%
合計	100.0%

「とても満足」「満足」「やや不満」「不満」と感じた理由や、印象に残ったことがあれば教えてください。（任意）

- 市長と非常に近い距離で、市政動向や質疑応答を聞くことができてよかった。
- 財政が良好な状態にあることを知れた。
- 市長の質疑応答やプレゼンの質が高いこと。今後も寝屋川市を盛り上げてもらえると感じた。
- しっかりと聞いてもらい即座に答えてもらったのがよかった。
- 市長からの説明が丁寧で分かりやすかった。そこでしか聞けないお話も多く、参加して良かった。
- 市長の幅広い知識に驚愕した。
- ターミナル化の説明はよく理解したが、その欠点を補う施策が述べられていなかったところが気になる。
- 市民からの苦情（要望）を聞く時間が短かった。
- 開催会場のうち、2か所くらいは土曜日の午後とかあると、より多くの方が参加出来るので考えて欲しい。

時間について（どれか一つ）

設問	割合
長すぎる	0.0%
少し長い	3.3%
ちょうど良い	66.7%
少し短い	30.0%
短すぎる	0.0%
合計	100.0%

イベントの開催曜日と開催時間帯は、次のどれが良いですか。（どれか一つ）

設問	割合
平日 午前中（10時～12時）	6.7%
平日 午後（13時～16時）	20.0%
平日 夕方（16時～18時）	10.0%
平日 夜（18時～20時）	23.3%
土日祝 午前中（10時～12時）	6.7%
土日祝 午後（13時～16時）	20.0%
土日祝 夕方（16時～18時）	3.3%
土日祝 夜（18時～20時）	6.7%
長期休暇 午前中（10時～12時）	0.0%
長期休暇 午後（13時～16時）	3.3%
長期休暇 夕方（16時～18時）	0.0%
長期休暇 夜（18時～20時）	0.0%
合計	100.0%

次回もこのようなイベントに参加したいと思いますか。（どれか一つ）

設問	割合
ぜひ参加したい	63.3%
都合がつけば参加したい	30.0%
あまり参加したくない	0.0%
今後は参加しないと思う	6.7%
合計	100.0%

普段から公共施設の利用、市主催のイベント等へ参加されていますか。（どれか一つ）

設問	割合
よく利用・参加している	36.7%
利用・参加している	30.0%
あまり利用・参加していない	33.3%
利用・参加していない	0.0%
合計	100.0%

利用している施設・参加しているイベントを教えてください（任意）

- 寝屋川まつり
- 農業まつり
- ねやがわパーク事業～月見とランタンのタベ～
- ねやがわパーク事業～桜と光の舞い～
- コミセンまつり
- 市民大訓練
- 市議会や各分科会の傍聴
- 子育て、家庭教育支援に関するセミナー等
- 市民活動センターで開催されているイベント等
- 男女共同参画推進センター主催のセミナー等

寝屋川市の施策・サービスに満足されていますか。（どれか一つ）（任意）

設問	割合
とても満足	6.7%
満足	66.6%
やや不満	20.0%
不満	6.7%
合計	100.0%

寝屋川市の施策・サービスについて、満足・不満と感じた点があればご記入ください。

（自由記述欄）

- 市役所機能がほぼ1箇所に統合されている。
- 多くの市役所機能が各シティ・ステーションで提供されている。
- 図書館が過ごしやすい。
- 職員の対応が親切で丁寧。
- サービスゲートのアテンダントの心地の良い接客は、とても素晴らしく感じる。
- 広報誌で市長の働きぶりがよく伝わっている。
- 近隣に文化的な施設が少ない。
- もっと市民を巻き込んで施策など進めてほしい。
- ターミナル化は予算が集約化され、ターミナルから離れた地域が利便性や地域環境整備に遅れができ、生活環境が疎かになることが危惧される。
- フルタイムだけでなく、子育て中の働いている人全員が安心して学童を利用できるようにしてほしい。

**令和7年度全世代タウンミーティング報告書(令和 8 年3月)**

寝屋川市 経営企画部 企画二課

〒572-8555 大阪府寝屋川市本町1番1号

URL <http://www.city.neyagawa.osaka.jp>

E-mail [kikaku02@city.neyagawa.osaka.jp](mailto:kikaku02@city.neyagawa.osaka.jp)